

【鳴子ダムは河川沿岸の浸水被害防止に努めました】

鳴子ダムは、秋雨前線の発達に伴う洪水に対して、流入総量9,840千 m^3 の貯留と、最大で毎秒415 m^3 のピークカットを行いました。この防災操作により、涌谷地点の河川水位を低減させ、沿岸の浸水被害防止を図りました。

(注意事項) 今回発表されている観測値は速報値であり、今後の精査により変更される場合があります。

- 9/10 15:30 災害対策支部(注意体制)を発令
- 〃 17:30 災害対策支部(警戒体制)に移行
- 9/11 08:50 災害対策支部(注意体制)に移行
- 〃 19:30 災害対策支部(注意体制)を解除

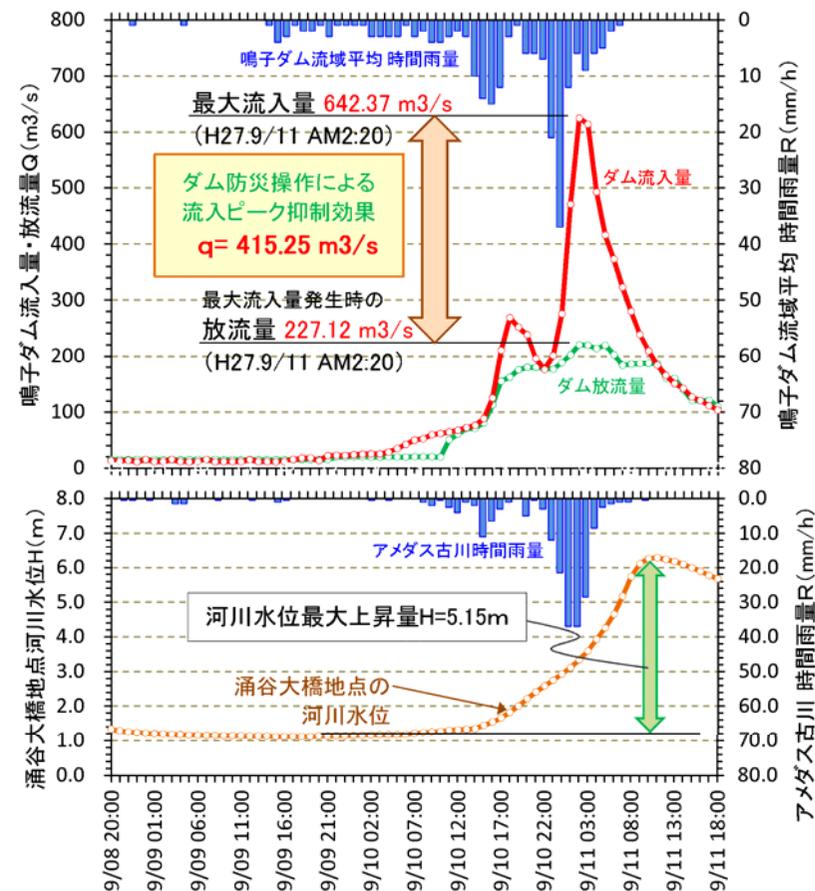
【洪水の概要と防災操作】

○北上川水系江合川の鳴子ダム流域では、秋雨前線に伴い、平成27年9月10日～11日の2日間で、1時間の最大雨量37mm、総雨量230mm(共に流域平均値)の降雨が発生しました。

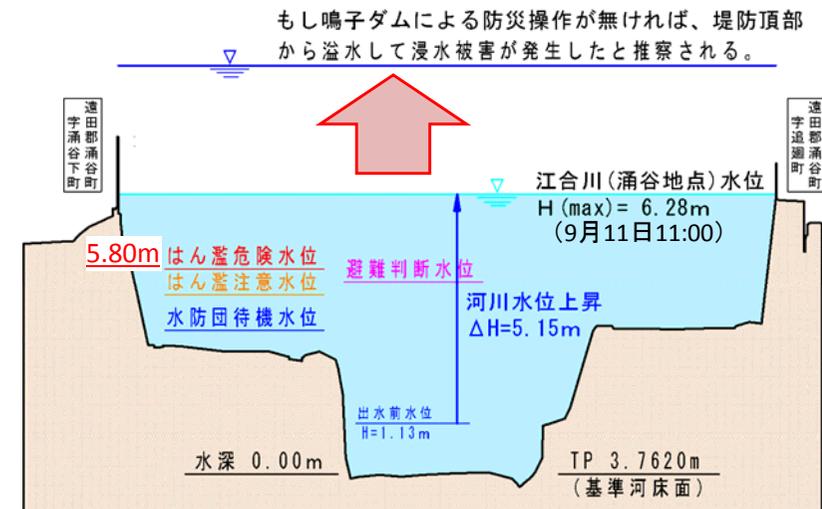
○ダム地点での最大流入量として毎秒642 m^3 を記録※しました。

※ 今回の洪水は、近年の気象条件下において、約17年に一度発生する規模の出水。

○鳴子ダムから約50km下流に位置する涌谷水位観測地点では、河川水位が6.28mに達し、はん濫危険水位(5.80m)を超過していたことから、仮にダムが無かった場合、河川水位は堤防頂部から溢水し、浸水被害が発生したと推察されます。



涌谷大橋下流地点(右岸側)から撮影
〔平成27年9月11日 12:10撮影〕



江合川(涌谷地点)河道断面図 [10.8k下流付近]